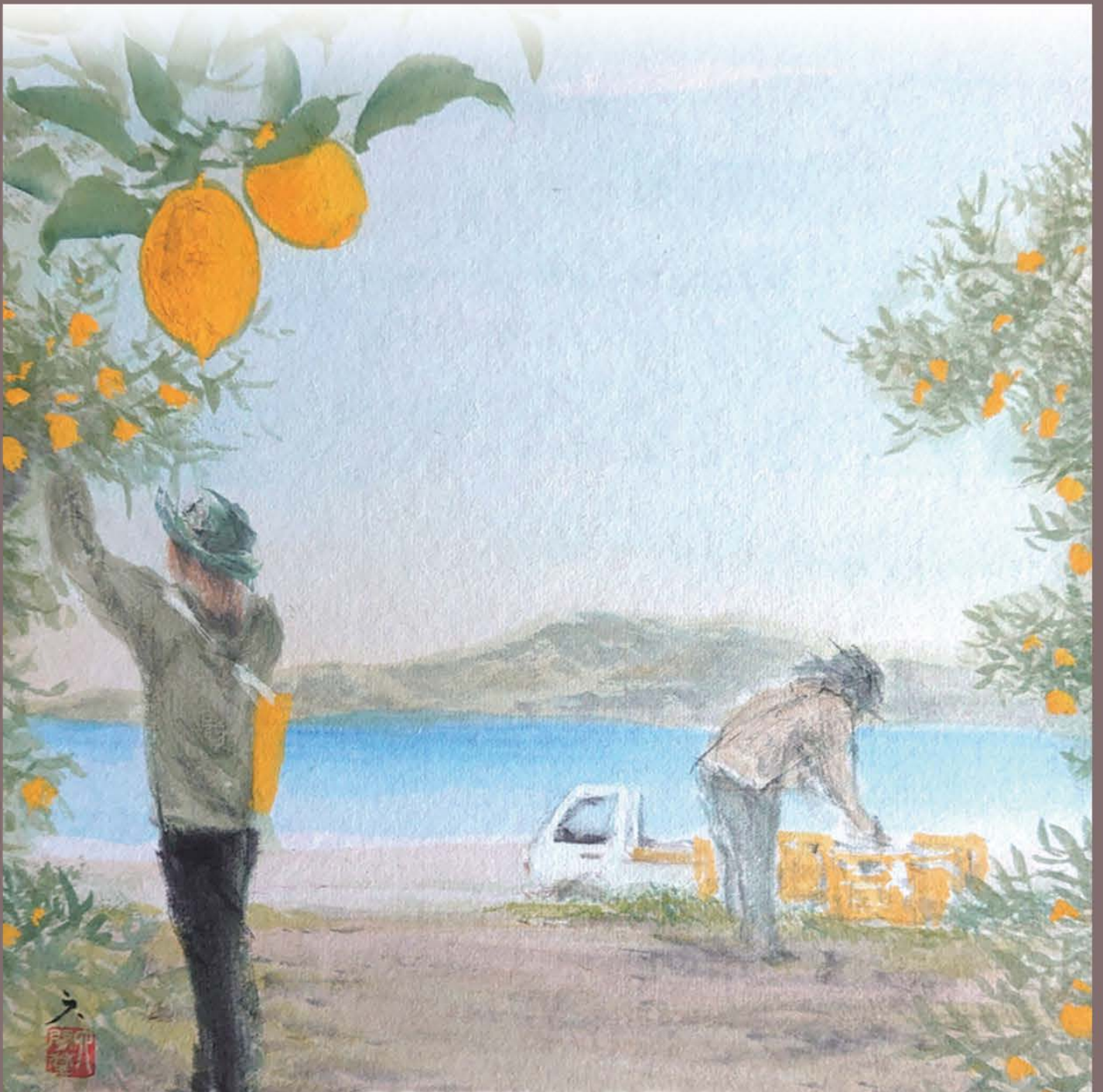


---

# MIKATA

---

第1号 | 2022年3月発行







「誰もが誰かのミカタになれる」ような、  
子ども達を中心とした居場所づくりを。

2021年9月12日、広島県離島大崎上島町に「ミカタカフェ」がオープン。  
主に島の高校生たちを中心とした、子どもたちの「第3の居場所づくり」（家庭・学校に次ぐ）を担いたいという想いでスタートを迎えたこの場所は、地域交流を生み出すことを目的としたコミュニティスペースと、併設のカフェスペースで構成される。

コミュニティスペースは、放課後の学生たちの勉強場所、大人たちの打ち合わせスペース、お散歩中のちょっとした休憩場所、小さな子ども達の遊び場など、その時々利用者によって使われ方も様々。利用者は基本的に好きな用途でスペースを使うことができる。また、季節にちなんだ催しから学生の持ち込み企画まで、週1度程度の頻度でイベントが開催され、島内外から多様な人々が集う場となっている。隣に併設されたカフェでは、高校生たちが開発したお菓子が店頭並び、実際のお菓子の製造から、販売の接客までを行う。

ミカタカフェの発起人である勝瀬は、島の高校で子どもたちの教育現場に携わる大崎上島町の地域おこし協力隊のスタッフ。子ども達と関わる中で、島には放課後の学生たちの勉強場所が少ないこと、そして、「もっと地域の大人との繋がりが欲しい」という学生たちの声を耳にする中で、子ども達を中心とした地域内での場づくりの必要性を感じた。2021年春から一般社団法人まなびのみなどの協力の下、同じく地域おこし協力隊の同期である神田と共に、カフェの立ち上げをスタート。夏には関東から移住してきた永峰が加わり、同年秋には3人の高校生スタッフたちが仲間に加わった。

9月からコミュニティスペースを開放しはじめ、追って同年11月に併設のカフェスペースをオープン。2021年の秋、ミカタカフェが本格的なスタートを迎えた。



# ミカタカフェって、こんな場所。



ミカタカフェ

## 「誰もが誰かのミカタになれる場所」

地域の子どもの挑戦を、誰もが1杯のコーヒーから応援できる場所を目指しています。(カフェの収益は、コミュニティスペースの運営や子どものための活動に充てられます)

子どもたちが“味方”に出会える場所。色々な世界の“見方”を教えてもらえる場所。そんな場所になってほしいという二つの願いがミカタカフェの店名に込められています。

- ①カフェの営業
- ②コミュニティスペースの開放
- ③週1程度の定期的なイベント開催 を行っています。

カフェを利用するという入口でミカタカフェに入ってくる人、コミュニティスペースを活用したい利用者、イベントを通じて関わってくれる人。色々な層の人が入り混じり、学校や家庭では出会えなかったような、人の繋がりを生む設計を目指しています。

和室側は  
コミュニティ  
スペース

ミカタカフェの1F



cafe space



高校生店長を見守るみんな

community space



たまたま居合わせた小学生と高校生が一緒に遊びはじめた光景



## コミュニティスペースの活用例

「過ごす」・「繋がる」・「挑戦してみる」

- ・勉強や仕事に集中して取り組む
- ・公共本棚の本をゆったり読む
- ・コーヒーを飲んでほっと一息つく
- ・居合わせた人とおしゃべりを楽しむ
- ・イベントに参加する
- ・イベントを開催する側になってみる

…などなど、ライトなものから深い関わり方まで様々





# ミカタカフェのはじまり

いつもと少し環境を変えて勉強したいとき。なんかやる気が起きなくて、ちょっとでいいから誰かに背中を押してほしいとき。都会の生活だったら、学校帰りにカフェに寄って勉強をしながら帰る、なんて選択肢もあるのでしょうか。過疎化と高齢化の進む離島では中々無い光景です。「目的があってもなくても、いつでもふらっと立ち寄れる場所をつくらう」というのが、ミカタカフェの出发点でした。

今お借りしている建物は、約三十年前まで町のパン屋さん「タカキベーカリーアリス」として営業されていた古民家。子どもたちのための場所をつくりたいんです、と想いをお伝えしたところ、二つ返事で持ち主の方に使用のご承諾を頂きました。パン屋が営業していた頃は、コロッケパンや肉まん、そして何度も表彰されるほど美味しかったというサンドイッチが販売されていたそうです。当時から高校生がお昼休みや放課後に

通う場所になっていたという話を、来店してくださったお客様からお聞きしました。

改修等に必要な費用は「子ども第三の居場所事業」を展開する日本財団様より助成を頂きました。現在も様々な面でサポートを頂いております。

子どもの居場所をつくらう、と思いついたのが二〇二一年の一月。少しずつ準備を始めようと改修準備を始めたのが同年四月。それから、高校生たちや地域の方にもお手伝いをいただきながら、約半年間におよぶ大掃除が始まりました。

古民家の改修作業が進む中、同時に高校生たちの学習スペースとしての開放も開始。まだ冷房がついていなかった夏、大人も高校生たちも汗だくになりながら勉強をしていた時もありました。





# オープンに向けて「みんなで作る」

カフェの看板商品となるコーヒーも、高校生と一緒にオリジナル商品を開発しました。

「大崎上島らしいコーヒーってどんな味だろう？」  
「島外の人に紹介したくなる、渡したくなるパッケージってどんなだろう？」形のないものを形にしているのはとても難しく、しかしながらとてもワクワクする時間でした。大崎上島らしさを探して、みんなで島内を一周した夏の日の暑さを今でも思い出します。

コーヒーの開発は大崎上島からフェリーで約三十分渡った先にある安芸津歳實コーヒーの歳實勲さんにご協力頂きました。

※安芸津歳實コーヒー

<https://www.toshizanecafe.com/>



高校生たちと共に歳實コーヒーさんへ訪問



高校生×地域おこし協力隊  
↑クラウドファンディングのプロジェクトを掲載。



↑高校生たちと開発したオリジナル珈琲二種。

完成したオリジナルドリップ珈琲は二種類。柑橘農家の方々の元気ハツラツさをイメージした『はれやかコーヒー』。そして、島の人々の深くてあたたかいやさしさをイメージした『ほんわかブレンド』。店頭でお出しするコーヒーも、この二種類からお選び頂けるようになっていきます。

また、コーヒー開発に必要な費用は、クラウドファンディングで一七名の方々の皆様に支援頂きました。たくさんのご支援を本当にありがとうございます。

子どもたちを応援したい。と居場所をつくり始めましたが、気付くと自分たちの方が多くの方々に応援されています。それも、想像もしていなかったほど多くの人たちに。

## 皆で学習機をつくるDIYワークショップ➡

図工の授業が大好きな小学生や、何か手伝いたいと集ってくれた高校生たちと一緒に、カフェの裏庭で制作。「次にこのカフェに来たときに、これは私が塗ったんだよ！この机は僕が作ったんだよ！って言いたいよね」なんて会話をしながら、楽しくみんなで取り組みました。







### 高校生スタッフが開発した焼き菓子メニュー3種

皮までそのまま提供できるように、と島で採れたオーガニックレモン・オレンジをそれぞれ使用。フードデザイナーとして活躍されている堀川藍さんに監修頂き、試作を重ねて完成しました。試作品を作っては宅急便で送付し、何度もオンライン会議を重ね、高校生たちは緊張しながらも自分たちの意見を伝えていました。(フードデザイナー堀川藍さん [https://www.instagram.com/ai\\_mogmog/](https://www.instagram.com/ai_mogmog/))  
※メニューは季節によって変わる場合がございます。ご了承ください。



# 併設カフェがオープン

2021.11

なんとか迎えることができたオープン初日。2021年11月21日。高校生アルバイトの仲間も加わり、オープン初日は100人を超えるお客様にご来店頂き大盛況。スタッフ一同嬉しさをかみしめながら、高校生店長は初めてのカフェバイトに顔を赤らめながら、てんてこまいのオープン初日を無事終えることができました。





# 「面」で、まちを見てみよう。

日付：11月21日  
時間：13:00～  
随時開催/随時  
場所：ミカタカ  
中野1871

**教えて！  
私達の知らない、  
昔の上島のこと。**

30年前まで「アリス」というパン屋さん  
(タカキベーカリー)だった物件を  
改装して出来たミカタカフェ。  
カフェの周辺地域は、昔はどんな通りで  
どんな方たちがどんな風に過ごしていた  
まちだったのでしょうか。

①参加者の募集：  
一緒に町を歩きながら、地元  
お話を聞きにいこう！見せて  
写真や、聞いたお話をみんな  
地図・模造紙にまとめてみよう

②ご協力いただける方の募集  
ミカタカフェ周辺地域(中野)  
お話を、昔のお写真を見せて  
ご協力いただけると嬉しい！



ここからはミカタカフェで開催された一部イベントのご紹介です。

ミカタカフェは、地元の方に愛されていたパン屋さんの跡地を改装して、場所を使わせていただいています。お店としては、約30年ぶりの復活です。お店の前を通りすぎるご近所の方々には、30年ぶりにこの通りの商店が復活するというところで、懐かしいという声を聞かせてくださる方も少なくありません。

そんな中ミカタカフェでは、カフェスペースがオープンを迎えた同日に、古地図を用いたイベントを開催しました。島の方にご協力いただけて手に入れた、約四十年



↑イベントはコミュニティスペース側で行われました。みんなで地図を囲んで丸くなっている様子。

前の島の古地図を机の上に広げ、カフェに来てくださった地元の方々に、あれこれ島の昔話を教えてもらう、といった企画でした。

「昔はここに何があったの？」「放課後はどんなお店に寄っていたの？」

学生たちからお年寄りの方々まで、異なる年代の方々が島や地域という、共通のワードを元に繋がり合った瞬間でした。私達の知らなかった島の姿がどんどん見えてきます。



ちなみに…

昔のミカタカフェは、  
「アリス」というパン屋さん。  
(タカキベーカリー)

カフェ店頭のガラスに印字してある文字は、パン屋さんだったころの名残を残しています。

サンドウィッチやコロケパン、肉まんなどが特に美味しかったと地元で評判のお店だったそう



聞いたお話をみんなで地図にまとめました（ミカタカフェ周辺）



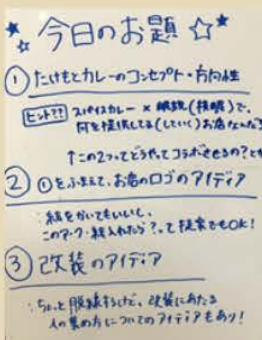
## ご近所さんのお店と、こんなコラボも！ 「眼鏡カレー屋さん大作戦」

ミカタカフェの近くにある眼鏡屋さん。

数年ぶりにお店のシャッターを開け、再開の準備をされているこちらのお店では、同じお店で眼鏡屋さんだけでなく、スパイスカレー屋さんも新しく始めたいのだそう。

準備をコツコツ進める、オーナーのTさんからコラボのお話をいただき、高校生たちを交えて、眼鏡×カレー屋さんがどんな場所になったらいいか、一緒にブレインストーミングの会議をミカタカフェで行いました。

こうした「互いを応援しあう」雰囲気がある所がこの島の良さでもある気がします。参加してくれた学生たちは、「自分達のアイディアが、地域の人役に立てているような気がして、とても楽しかった！」という声を聞かせてくれました。





# 島外の人達から、 刺激をもらおう。

## 大学生の即興イベント企画。

京都から大崎上島にインターンで来ていた、音楽教育を学んでいる大学生Nくん。「音楽の楽しさや面白さを伝えられる人になりたい」と話していた彼に、音楽イベントをミカタカフェで急遽開催してもらうことに。イベントの内容や企画・広報まで、1からイベント企画を担当してもらいました。

当日の参加者には、シンガーソングライターを目指す、島内の高校生も顔を見せてくれました。



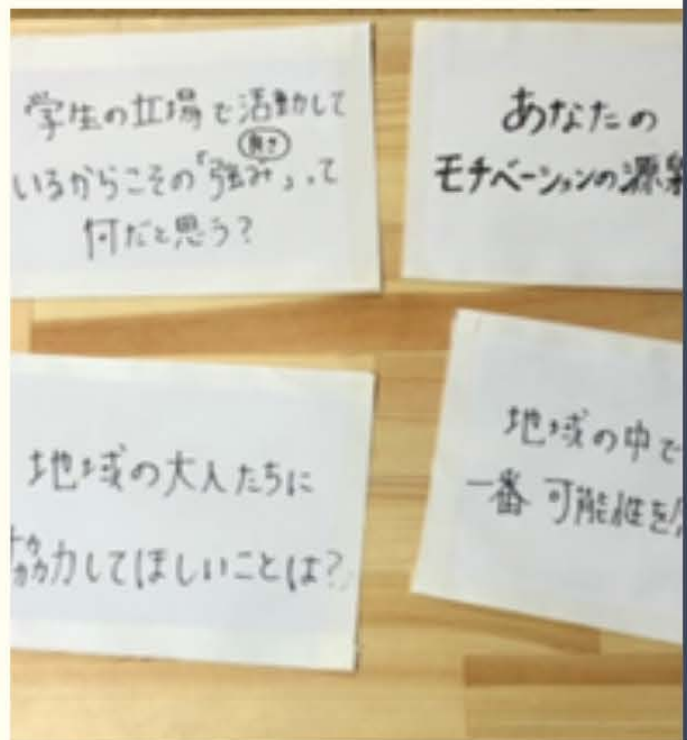
大学生作成のチラシ。  
初めて作成したそう。

## 遥々、福島からお越しいただいた スペシャルゲスト。

福島県白河市で「コミュニティカフェEMANON」を立ち上げ・運営されている青砥さんと、共に地域活動に取り組む白河市の高校生たちが、遥々大崎上島に来てくださる機会があり、コラボイベントをさせていただきました。ミカタカフェを立ち上げる時に参考にさせていただいた、「高校生カフェ」の先駆者・大先輩にあたります。

(コミュニティ・カフェEMANON：  
<https://emanon.fukushima.jp/>)

イベントでは、同じく大崎上島で地域活動を行う高校生たちを呼んで、地域を超えた高校生同士の交流イベントとして実施をしました。同じ「地域」というキーワードで活動する学生同士が、悩みを共有したり、お互いにエールを送り合ったり、最後には連絡先を交換しはじめるなど、和気あいあいとした時間となりました。イベント時間が終わってしまうのが心底名残惜しそうな学生たちの様子に、大人たちも微笑ましい気持ちになりました。







## ちょっとやってみよう。

### だれでも出店できる クリスマスマーケット。

「将来、あれやってみたい。」  
それ、今やってみませんか？

「挑戦」とまで構えずとも、ゆるっと「皆でちょっとやってみようよ」をコンセプトに、誰でも出店できるマーケットイベントを開催しました。

当日は4つの出店(展)ブースが出来上がり、中学生の手作りクッキーのお店・絵本が好きな高校生による移動絵本館・島でキャンドルを作られている方のキャンドルワークショップ・カフェスタッフによるブレンドハーブティ...など、大人も子どもも、ちょっとやってみたい、を試しにやってみるとい、「最初の一步」をみんなで踏み出す機会となりました。

この日の中学生たちのお手製クッキーは、なんと早々に完売に！後に「お菓子作りに目覚めた」との中学生からの報告に、思わずスタッフたちの顔がほころびました。

### 高校生カメラマンによる、 大崎上島写真展。

カメラが大好きな高校1年生のKくん。  
誰でも出店できるクリスマスマーケットで、自分の写真展をやってみたかったものの日程が合わず断念。

「今度、写真展やりたいです！」という宣言から、  
わずか3か月で有言実行を果たしてくれました。

開催の2か月前には自作の企画書を手し、気合十分で写真展準備を始める姿は、大人顔負けの頼もしさでした。

これをきっかけに、学生からの持ち込み企画が増えていくと「やってみよう」の良い流れが出来ていきそうです。





# 大人も子どもも関係なく。

ゆるいよ〜

さまざまな島人さんと過ごす  
日曜日のゆったり休憩時間

3/20  
Sun

しまびと  
**島人休憩時間**

15:00 ~ 16:00

vol.1

※注意※  
この会はセミナー的な  
場ではなく、コミュニケーション  
の重点を置いたゆる  
ゆるお喋り会です！

◎ミカ  
カフ

今日の島人さんは、  
柑橘農家の  
**山中 陽子 さん (Yamanaka Yoko)**

※柑橘農家※ベテランさんの下で作業中※元体育教員※スポーツが大好きで  
生きがい※野球大好き※災害ボランティア経験



第1回はみんなでこたつを囲みながら  
和気あいあいとした雰囲気で開催されました。

## 島に住んでいる人のこと、 どれくらい知ってる？

子どもも大人も関係なく、  
フラットな「人と人が繋がる機会」をつくっていか  
うという背景の下スタートした「島人休憩時間」。

月に1度、島で活動するさまざまな「島人さん」を  
お招きしては、ゆるゆるとおしゃべりを楽しむ企画  
です。

学校の授業を通して、仕事を通して出会うのとはま  
た違った「フラットでゆるい繋がり」をつくってい  
くことで、気軽に相談ができる関係性や、何かやっ  
てみようと思ったときに助け合える関係性を、地域  
の中で築けていけたらと思います。



これから

## 世代を超えた交流を。

「若い人たちとお話できて、楽しかったわ」  
「やっぱり元気をもらえるね」

ミカタカフェにいと、遊びに来てくださった  
ご年配の方にそう言っていただく機会が何度かありました。

「地域の大人と繋がる」こと。  
それは子どもたちにとっての  
メリットだけではないのかもしれない。

高校生を中心としてスタートしたミカタカフェですが、  
様々なイベントを通して世代を超えた人の繋がりをつくることで、  
このカフェが色んな人にとっての居場所になれたらと思っています。





# ミカタカフェ概要

## ■住所

広島県豊田郡大崎上島町中野1871-1

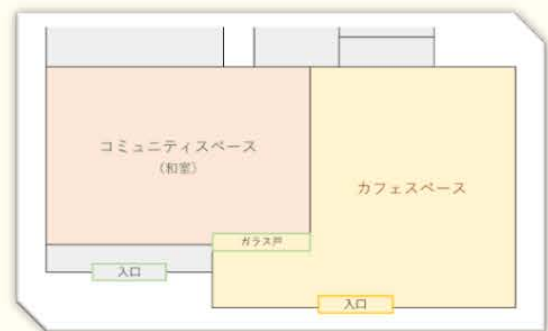
## ■営業日

木・金・土・日(・祝日)

	木・金	土日祝日
コミュニティスペース ※無料で利用できます	13:00-20:00	10:00-17:00
カフェスペース	13:00-19:30 ※ドリンクメニュー のみ取り扱い	10:00-17:00 ※全メニュー取り扱い

## 【コミュニティスペース（和室側）】

- ・ Free Wi-Fiあり
- ・ 飲食持ち込みOK（感染状況により変更になる場合があります）



## ◆SNS

※イベント情報は随時SNSで発信しています

Facebook : <https://www.facebook.com/mikatacafe>

Instagram : <https://www.instagram.com/mikatacafe0912/>

LINE : <https://lin.ee/FhV4k4t>





---

ミカタカフェ

(運営団体：一般社団法人まなびのみなど)

スタッフ：勝瀬祐介 (責任者)

神田瞳

永峰苑佳

高校生スタッフ：竹下真帆 (店長)

北原ほのか

中西恋雪

協力：円光歩

MIKATA (2021年度活動報告書)

発行：2022年3月

制作：永峰苑佳

---







---

# MIKATA

---

